■ 訂正箇所

箇所		訂正前	訂正後																
ページ	行																		
15	表 8	(一部) <table border="1"> <thead> <tr> <th>代表的な図法</th> <th>特 徴</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>メルカトル図法</td> <td>経線は平行な直線, 緯線は経線に直交する直線になる等角コースが直線であらわされる</td> </tr> <tr> <td>正距方位図法</td> <td>中心から任意の点までの最短経路(大圏コース)が直線であらわされる</td> </tr> <tr> <td>メルワイデ図法</td> <td>すべての緯線と中央経線の長さが正しい 外周は楕円形になる</td> </tr> </tbody> </table>	代表的な図法	特 徴	メルカトル図法	経線は平行な直線, 緯線は経線に直交する直線になる等角コースが直線であらわされる	正距方位図法	中心から任意の点までの最短経路(大圏コース)が直線であらわされる	メルワイデ図法	すべての緯線と中央経線の長さが正しい 外周は楕円形になる	(一部) <table border="1"> <thead> <tr> <th>代表的な図法</th> <th>特 徴</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>メルカトル図法</td> <td>緯線は平行な直線, 経線は緯線に直交する直線になる。等角コースが直線であらわされる</td> </tr> <tr> <td>正距方位図法</td> <td>中心から任意の点までの最短経路(大圏コース)が直線であらわされる</td> </tr> <tr> <td>メルワイデ図法</td> <td>緯線は平行な直線, 経線は中央経線以外は弧を描く 高緯度になるほど緯線の間隔が縮まる</td> </tr> </tbody> </table>	代表的な図法	特 徴	メルカトル図法	緯線は平行な直線, 経線は緯線に直交する直線になる。等角コースが直線であらわされる	正距方位図法	中心から任意の点までの最短経路(大圏コース)が直線であらわされる	メルワイデ図法	緯線は平行な直線, 経線は中央経線以外は弧を描く 高緯度になるほど緯線の間隔が縮まる
代表的な図法	特 徴																		
メルカトル図法	経線は平行な直線, 緯線は経線に直交する直線になる等角コースが直線であらわされる																		
正距方位図法	中心から任意の点までの最短経路(大圏コース)が直線であらわされる																		
メルワイデ図法	すべての緯線と中央経線の長さが正しい 外周は楕円形になる																		
代表的な図法	特 徴																		
メルカトル図法	緯線は平行な直線, 経線は緯線に直交する直線になる。等角コースが直線であらわされる																		
正距方位図法	中心から任意の点までの最短経路(大圏コース)が直線であらわされる																		
メルワイデ図法	緯線は平行な直線, 経線は中央経線以外は弧を描く 高緯度になるほど緯線の間隔が縮まる																		
34	画像		(島の衛星画像を正確に表示)																
46	写真 3	1300 年前から続く棚田は, <u>世界遺産に登録されている。</u>	(世界遺産マークを外す) 1300 年前から続く棚田の雄大な姿は, <u>観光資源にもなっている。</u>																
57	表 9	下段が <u>年降水量</u> mm	下段が <u>月降水量</u> mm																
61	5 (欄外)	また, 山麓から <u>地下水を通すカナート^②</u> による <u>灌漑農業</u> が古くから ^② 灌漑用の地下用水路のことで, イランを中心に乾燥地帯に広がった。北アフリカでは <u>ファラジ</u> , アラビア半島では <u>フォガラ</u> など, 地域によっていろいろなよび方がある。	また, 山麓から <u>地下用水路^②</u> を通して水を導く <u>灌漑農業</u> が古くから ^② 灌漑や生活用の地下水を得るため, イランを中心に乾燥地帯に広がった。イランでは <u>カナート</u> , アラビア半島では <u>ファラジ</u> , <u>北アフリカ</u> では <u>フォガラ</u> など, 地域によっていろいろなよび方がある。																
73	図 6		(エクアドル, グアテマラをラテンアメリカの色に修正)																
77	欄外③	人工知 <u>脳</u>	人工知 <u>能</u>																
90	図 3		(ジャマイカ, ハイチをフランス語の色に修正)																
104	図 5	<u>太平洋</u>	<u>太平洋</u>																
127	写真	<u>ノルウェー</u>	<u>ノルウェー</u>																
148	写真 1	③紀勢本線・特急 <u>スーパーくろしお</u>	③紀勢本線・特急くろしお																

■ おもな記述変更・資料更新箇所

箇所		変更前	変更後
ページ	行		
15	図6		(富山からの等距離線を追加)
28	図2		(スケールを明瞭にし、東京-金沢間ほか経路を見直し)
31	図7		(TPP11 協定と RCEP の発効を反映)
35	左解説	機能メニューから断面図を選択して	ツールボタンから断面図を選択して
	中央解説	機能メニューからツール→計測と選択し	ツールボタンから計測を選択し
	右解説	機能メニューの3Dを選択し、	ツールボタンから3Dを選択し、
49	写真7	白い砂浜が龍が天に昇る姿に見立てられる天橋立	逆さにのぞいた際、天へ舞い上がる龍の姿に見立てられる天橋立
55	図5		
68	図2		(とんかつのイラストを牛丼に修正)
77	5	2017 年をみると、	2018 年をみると、
83	コラム	アールセップ RCEP など、	アールセップ RCEP 協定 など、
	図5		
92	図1		(ジャマイカとスリナム周辺、韓国の一部にプロテスタントを追加)
100	図5		(ウクライナ、モルドバの国境を追加)
100	13	アルミニウム工業などの工業化を	アルミニウム精錬などの工業化を
102	15	カナダではイヌイットは総人口の6%にも満たない少数民族	カナダではイヌイットは総人口の1%にも満たない少数民族
103	図4	ウクライナのロシア系住民の自治権拡大運動	ウクライナ紛争
103	写真6	<p>↑6 EU域内へ入国したシリア難民(クロアチア、2015年撮影) ヨーロッパ各国に大量の難民が流入した。</p>	<p>↑6 戦火の広がるウクライナ南東部から避難する人々(ウクライナ・リヴィウ、2022年4月撮影) ロシアの侵攻により、大量の避難者がポーランドなどの近隣国へと押し寄せた。</p>
103	4	強くなる例もみられる。(改行) 移民のうち、	強くなる例もみられる。移民のうち、
103	7	アフリカでは多くの民族対立や内戦がおきており、難民の発生数も多い(図4)。2011年からのシリア内戦では周辺諸国、またヨーロッパへと大量の難民が移動している(写真6、図7)。	アフリカでは多くの民族対立や内戦がおき、難民の発生数も多い(図4)。2011年からのシリア内戦では周辺諸国やヨーロッパへ大量の難民が流入した(図7)。2022年のウクライナ紛争でも多くの人々が国外へ避難している(写真6)。
103	13	2019年には約160万まで増加した(図5)。	2020年には約170万まで増加した(図5)。
112	図3		(2022年7月現在を追加)

箇所		変更前	変更後																																																																																																						
ページ	行																																																																																																								
113	図6		(ウクライナ・モルドバのEU加盟候補国入りを反映)																																																																																																						
113	11	スラブ系には正教会が分布しているのがみとれる。	スラブ系には正教会が対応しているのがみとれる。																																																																																																						
123	8	ゲーテッドコミュニティ	ゲーテッドコミュニティ																																																																																																						
123	12	その使用料などで、サービス収支や資本収支は黒字になっている。一方、消費大国アメリカの輸入は増加しているうえ、製造業が不振で輸出は停滞しており、貿易赤字は年々拡大している	その使用料などでサービス収支は黒字になっている。一方、消費大国アメリカの輸入は増加しているうえ、製造業が不振で輸出は停滞しており、貿易赤字は拡大している																																																																																																						
123	15	これまで自由貿易を主張してきたアメリカだったが、保護貿易を求める動きがみられるようになった。世界の超大国だったアメリカだが、近年はその影響力も変化してきている。環境や資源をはじめ、国境をこえた課題への国際協調がますます必要となるなか、パリ協定を一時離脱するなど、アメリカでは自国ファーストの主張もみられるようになった。	これまで自由貿易を主張してきたアメリカだったが、自国の産業を守る保護貿易を求める動きがみられるようになった。環境や資源をはじめ、国境をこえる課題への国際協調がますます必要となるなか、パリ協定の一時離脱や移民の受け入れ制限など自国ファーストの動きもみられる。近年は、超大国アメリカの国際的な影響力も変化してきている。																																																																																																						
128	8	2100年にはおよそ109億人でピークに達すると予測されている。	2086年頃にはおよそ104億人でピークに達すると予測されている。																																																																																																						
131	14	増加する老年人口を	増加する高齢者人口を																																																																																																						
131	15	インドは2030年までに中国を抜いて世界1位の人口大国になると予測されている。	人口増加が続くインドは、2023年に中国を抜き世界1位の人口大国になると予測される。																																																																																																						
132	8	2050年には老年人口率が40%に近づくると予測されている。	2030年代には人口の3分の1が高齢者になると予測されている。																																																																																																						
133	図7解説	日本全体では1.36だが、	日本全体では1.37だが、																																																																																																						
135	16	TPPなどの	TPP11協定などの																																																																																																						
	欄外	④ TPP(環太平洋パートナーシップ)協定は、日本を含む環太平洋諸国12か国による経済の自由化を目的としたEPAで、2016年に締結された。その後、アメリカが離脱し、11か国によって2018年に署名され、同年発効した(▶p.31図7)。	④ TPP(環太平洋パートナーシップ)は、日本を含む環太平洋諸国12か国による経済の自由化を目的としたEPAで、2016年に締結された。その後、アメリカが離脱し、11か国によって2018年に署名され、同年にTPP11協定として発効した(▶p.31図7)。																																																																																																						
141	10	持続可能な街づくりを進めている街もみられる	持続可能な町づくりを進めている都市もみられる																																																																																																						
141	写真6	バグダッド	バグダッド																																																																																																						
143	注①	フライブルグで	フライブルクで																																																																																																						
150	図2		(ガイアナ沖に油田記号を追加)																																																																																																						
152	コラム	その利用は決して新しいものではない。オランダでは5世紀に干拓地であるポルダーの排水用に風車が使われ、その一部は世界遺産に登録されている。	風力の利用は決して新しいものではない。オランダでは5世紀に偏西風を利用した風車で干拓地であるポルダーの排水を行っており、その一部は世界遺産に登録されている。																																																																																																						
156	表1	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>日本</th> <th>フランス</th> <th>中国</th> <th>インド</th> <th>ドイツ</th> <th>イギリス</th> <th>アメリカ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自給率(2018年) [おもな国産資源]</td> <td>10% [なし]</td> <td>53% [原子力][*]</td> <td>82% [石炭]</td> <td>65% [石炭]</td> <td>37% [石炭]</td> <td>68% [石油・天然ガス]</td> <td>93% [天然ガス・石油・石炭]</td> </tr> <tr> <td>太陽光発電 設備利用率</td> <td>15%</td> <td>14%</td> <td>16%</td> <td>18%</td> <td>11%</td> <td>11%</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>風力発電 設備利用率</td> <td>25%</td> <td>29%</td> <td>25%</td> <td>23%</td> <td>30%</td> <td>31%</td> <td>37%</td> </tr> <tr> <td>国際パイプライン</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>国際送電線</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 設備利用率とは発電設備がフルに稼働した場合に対する割合 *原子力発電の原料であるウランは輸入に依存</p> <p>[出所：エネルギー白書2019]ほか</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2018年</th> <th>日本</th> <th>フランス</th> <th>中国</th> <th>インド</th> <th>ドイツ</th> <th>イギリス</th> <th>アメリカ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次エネルギー自給率 [おもな国産資源]</td> <td>12%</td> <td>55% [原子力][*]</td> <td>80% [石炭]</td> <td>65% [石炭]</td> <td>37% [石炭]</td> <td>70% [石油・天然ガス]</td> <td>97% [天然ガス・石油・石炭]</td> </tr> <tr> <td>太陽光発電の 構成比</td> <td>6.6%</td> <td>2.1%</td> <td>3.0%</td> <td>3.1%</td> <td>7.6%</td> <td>4.0%</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>風力発電の 構成比</td> <td>0.7%</td> <td>6.1%</td> <td>5.4%</td> <td>4.3%</td> <td>20.7%</td> <td>19.9%</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>国際パイプライン</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>国際送電線</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>*原子力発電の原料であるウランは輸入に依存</p> <p>[出所：エネルギー白書2021]ほか</p>								日本	フランス	中国	インド	ドイツ	イギリス	アメリカ	自給率(2018年) [おもな国産資源]	10% [なし]	53% [原子力] [*]	82% [石炭]	65% [石炭]	37% [石炭]	68% [石油・天然ガス]	93% [天然ガス・石油・石炭]	太陽光発電 設備利用率	15%	14%	16%	18%	11%	11%	19%	風力発電 設備利用率	25%	29%	25%	23%	30%	31%	37%	国際パイプライン	×	○	○	○	○	○	○	国際送電線	×	○	○	×	○	○	○		2018年	日本	フランス	中国	インド	ドイツ	イギリス	アメリカ	1次エネルギー自給率 [おもな国産資源]	12%	55% [原子力] [*]	80% [石炭]	65% [石炭]	37% [石炭]	70% [石油・天然ガス]	97% [天然ガス・石油・石炭]	太陽光発電の 構成比	6.6%	2.1%	3.0%	3.1%	7.6%	4.0%	2.1%	風力発電の 構成比	0.7%	6.1%	5.4%	4.3%	20.7%	19.9%	6.8%	国際パイプライン	×	○	○	×	○	○	○	国際送電線	×	○	○	○	○	○	○
	日本	フランス	中国	インド	ドイツ	イギリス	アメリカ																																																																																																		
自給率(2018年) [おもな国産資源]	10% [なし]	53% [原子力] [*]	82% [石炭]	65% [石炭]	37% [石炭]	68% [石油・天然ガス]	93% [天然ガス・石油・石炭]																																																																																																		
太陽光発電 設備利用率	15%	14%	16%	18%	11%	11%	19%																																																																																																		
風力発電 設備利用率	25%	29%	25%	23%	30%	31%	37%																																																																																																		
国際パイプライン	×	○	○	○	○	○	○																																																																																																		
国際送電線	×	○	○	×	○	○	○																																																																																																		
	2018年	日本	フランス	中国	インド	ドイツ	イギリス	アメリカ																																																																																																	
1次エネルギー自給率 [おもな国産資源]	12%	55% [原子力] [*]	80% [石炭]	65% [石炭]	37% [石炭]	70% [石油・天然ガス]	97% [天然ガス・石油・石炭]																																																																																																		
太陽光発電の 構成比	6.6%	2.1%	3.0%	3.1%	7.6%	4.0%	2.1%																																																																																																		
風力発電の 構成比	0.7%	6.1%	5.4%	4.3%	20.7%	19.9%	6.8%																																																																																																		
国際パイプライン	×	○	○	×	○	○	○																																																																																																		
国際送電線	×	○	○	○	○	○	○																																																																																																		

箇所		変更前	変更後																																												
ページ	行																																														
158	写真 1	氷河が後退し氷河湖に変わった。	氷河が大きく後退し、湾があらわれた。																																												
180	18	くちのえらぶ 口之永良部島	くちのえらぶ 口 永良部島																																												
181	表 8	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>レベル</th> <th>火山活動の状況</th> <th>住民・登山者の行動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">特別警報 噴火警報(居住地域)</td> <td>5 避難</td> <td>居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生、あるいは切迫している</td> <td>危険な居住地域からの避難が必要</td> </tr> <tr> <td>4 避難準備</td> <td>居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生すると予想される</td> <td>居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">警報 噴火警報(火口周辺)</td> <td>3 入山規制</td> <td>居住地域近くまで重大な影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される</td> <td>災害時要援護者の避難準備など、登山禁止、入山規制など</td> </tr> <tr> <td>2 火口周辺規制</td> <td>火口周辺に影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される</td> <td>火口周辺への立ち入り規制など</td> </tr> <tr> <td>予報 噴火予報</td> <td>1 活火山であることに留意</td> <td>火山活動は静穏</td> <td>通常の生活</td> </tr> </tbody> </table> <p>[出所：気象庁リーフレット「噴火警報と噴火警戒レベル」]</p>		レベル	火山活動の状況	住民・登山者の行動	特別警報 噴火警報(居住地域)	5 避難	居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生、あるいは切迫している	危険な居住地域からの避難が必要	4 避難準備	居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生すると予想される	居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難	警報 噴火警報(火口周辺)	3 入山規制	居住地域近くまで重大な影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される	災害時要援護者の避難準備など、登山禁止、入山規制など	2 火口周辺規制	火口周辺に影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される	火口周辺への立ち入り規制など	予報 噴火予報	1 活火山であることに留意	火山活動は静穏	通常の生活	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>レベル</th> <th>火山活動の状況</th> <th>住民・登山者の行動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">特別警報 噴火警報(居住地域)</td> <td>5 避難</td> <td>居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生、あるいは切迫している</td> <td>危険な居住地域からの避難が必要</td> </tr> <tr> <td>4 高齢者等避難</td> <td>居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生すると予想される</td> <td>居住地域での高齢者などの要配慮者の避難</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">警報 噴火警報(火口周辺)</td> <td>3 入山規制</td> <td>居住地域近くまで重大な影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される</td> <td>入山規制、高齢者などの要配慮者の避難の準備など</td> </tr> <tr> <td>2 火口周辺規制</td> <td>火口周辺に影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される</td> <td>火口周辺への立ち入り規制など</td> </tr> <tr> <td>予報 噴火予報</td> <td>1 活火山であることに留意</td> <td>火山活動は静穏</td> <td>通常の生活</td> </tr> </tbody> </table> <p>[出所：気象庁リーフレット「噴火警報と噴火警戒レベル」]</p>		レベル	火山活動の状況	住民・登山者の行動	特別警報 噴火警報(居住地域)	5 避難	居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生、あるいは切迫している	危険な居住地域からの避難が必要	4 高齢者等避難	居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生すると予想される	居住地域での高齢者などの要配慮者の避難	警報 噴火警報(火口周辺)	3 入山規制	居住地域近くまで重大な影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される	入山規制、高齢者などの要配慮者の避難の準備など	2 火口周辺規制	火口周辺に影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される	火口周辺への立ち入り規制など	予報 噴火予報	1 活火山であることに留意	火山活動は静穏	通常の生活
	レベル	火山活動の状況	住民・登山者の行動																																												
特別警報 噴火警報(居住地域)	5 避難	居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生、あるいは切迫している	危険な居住地域からの避難が必要																																												
	4 避難準備	居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生すると予想される	居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難																																												
警報 噴火警報(火口周辺)	3 入山規制	居住地域近くまで重大な影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される	災害時要援護者の避難準備など、登山禁止、入山規制など																																												
	2 火口周辺規制	火口周辺に影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される	火口周辺への立ち入り規制など																																												
予報 噴火予報	1 活火山であることに留意	火山活動は静穏	通常の生活																																												
	レベル	火山活動の状況	住民・登山者の行動																																												
特別警報 噴火警報(居住地域)	5 避難	居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生、あるいは切迫している	危険な居住地域からの避難が必要																																												
	4 高齢者等避難	居住地域に重大な被害をおよぼす噴火が発生すると予想される	居住地域での高齢者などの要配慮者の避難																																												
警報 噴火警報(火口周辺)	3 入山規制	居住地域近くまで重大な影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される	入山規制、高齢者などの要配慮者の避難の準備など																																												
	2 火口周辺規制	火口周辺に影響をおよぼす噴火が発生、あるいは予想される	火口周辺への立ち入り規制など																																												
予報 噴火予報	1 活火山であることに留意	火山活動は静穏	通常の生活																																												

図版などの統計更新

- 1章1節 球面上の世界 p.13 図 6
- 1章3節 国内や国家間の結びつき p.22 図 5, p.23 図 7, p.24 図 1, p.29 図 4/ 図 6
- 2章1節 自然環境と生活文化 p.57 図 8/ 表 9/ 雨温図, p.58 図 2, p.60 図 3, p.62 図 2, p.64 図 4
- 2章2節 産業の発展と生活文化 p.75 図 9, p.84 図 3
- 2章3節 言語・宗教と生活文化 p.103 図 5
- 2章4節 グローバル化の進展と生活文化 p.116 図 3, p.119 図 5, p.123 図 5
- 3章1節 人口・食料問題 p.128 図 2/ 図 3, p.129 図 6, p.130 図 3/ 図 4/ 図 5/ 図 6, p.131 図 9, p.132 図 3/ 図 4/ 図 5, p.133 図 7, p.135 図 7
- 3章2節 居住・都市問題 p.146 図 2/ 図 3, p.147 図 5
- 3章3節 資源・エネルギー問題 p.148 図 3, p.152 図 4
- 4章1節 自然環境と防災 p.171 図 7